

安全

【特に関連するゴール】



【関連するゴール】



Contents

- 安全に関する基本的な考え方 26
- JR東日本の安全管理体制 32
- 安全性向上の取組み 34
- JR東日本の安全の現状 50
- 安全の取組みに関する
お客さま・地域の皆さまとの連携 52

【トピックス】

災害発生時の指令機能強化 42

安全に関する基本的な考え方

当社は会社発足以来、「安全」を経営のトッププライオリティに掲げ、安全性の向上に取り組んできました。過去の痛ましい事故から真摯に学び、それを教訓としながら、ソフト・ハードの両面から事故を防止する努力を継続し、リスクの低減に向け、社員一人ひとりの取組みとハード対策・仕組みの構築を着実に進めています。

安全対策には「これで完全である」という終わりはありません。引き続き、「お客さまの死傷事故ゼロ、社員（グループ会社・パートナー会社社員を含む）の死亡事故ゼロ」をめざし、JR東日本グループが一体となって安全性向上への絶えざる挑戦を続けます。

安全綱領

安全に関わる社員の行動規範として、安全綱領を定めています。

- 1 安全は輸送業務の最大の使命である。
- 2 安全の確保は、規程の遵守および執務の厳正から始まり、不断の修練によって築きあげられる。
- 3 確認の励行と連絡の徹底は、安全の確保に最も大切である。
- 4 安全の確保のためには、職責をこえて一致協力しなければならない。
- 5 疑わしいときは、あわてず、自ら考えて、最も安全と認められるみちを採らなければならない。

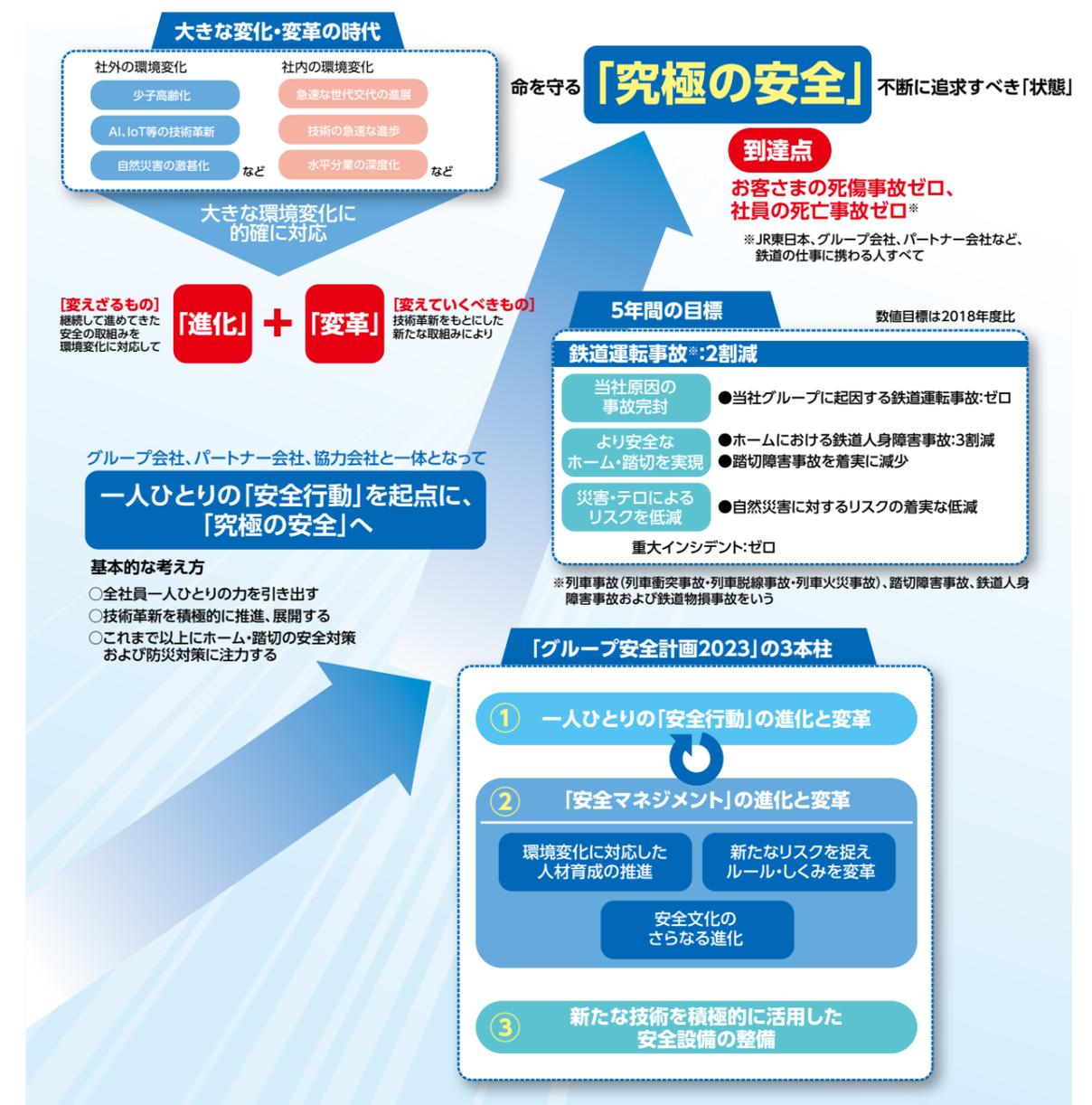
グループ安全計画2023

当社は会社発足以来、5ヵ年毎に安全計画を策定し、2018年11月に第7次となる「グループ安全計画2023」を策定しました。グループ会社、パートナー会社、協力会社と一体となって、一人ひとりの「安全行動^{*}」を起点に、「究極の安全」を追求していきます。

^{*}安全行動 安全レベルを向上させるためにとるすべての行動

「グループ安全計画2023」では、「『進化』と『変革』」をサブタイトルとして掲げています。当社グループの内外の急激な環境変化を踏まえ、「一人ひとりの『安全行動』の進化と変革」「『安全マネジメント』の進化と変革」「新たな技術を積極的に活用した安全設備の整備」という取組みの3本柱のもと、環境変化に的確に対応して具体的な取組みを進めていきます。

「グループ安全計画2023」の全体像



グループ安全計画2023 取組みの3本柱

1 一人ひとりの「安全行動」の進化と変革

鉄道の安全は、「基本動作」「ルールを守る」「過去の事故から学ぶ」など、社員一人ひとりの安全に対する具体的な行動により支えられています。

今後さらに大きな環境変化が予想される中で、一人ひとりが、これまでの取組みをそのまま実行するだけではなく、「仕事の本質」を理解した上で起こりうるリスクを徹底的に掘り起こすなど、環境変化に対応して「進化」させるとともに、実態と乖離している身近な作業環境を見直し業務変革を行うなど、新たな取組みにより「変革」していく必要があります。

2 「安全マネジメント」の進化と変革

一人ひとりの「安全行動」の進化と変革のために、職場、支社、本社の「安全マネジメント」も一体となって、進化・変革させています。具体的には「安全文化のさらなる進化」「環境変化に対応した人材育成の推進」「新たなリスクを捉えルール・しくみを変革」に取り組みます。さらに「グループ会社・パートナー会社・協力会社が安全に作業できる体制のさらなる整備」「新幹線に関するさらなる安全対策」を進めていきます。

〈安全文化のさらなる進化〉

当社グループが今まで大切にしてきた「5つの文化」「CS運動」「三現主義」などの安全文化が、様々な安全の取組みの土台となります。一人ひとりが「安全行動」を実践し、環境変化に対応しながら、安全文化をさらに進化させていきます。

危険と思ったら列車を止める

「安全」は人の命を守ること、「安定」は列車の正確な運行を守ることであり、どちらも鉄道にとって重要です。ただ列車を遅らせまいとするあまり、安全確認の手順が疎かにならないよう留意する必要があります。



列車防護訓練

「危険と思ったら列車を止める!」ことをグループ全体の確固たる行動規範として徹底します。

5つの文化のさらなる浸透

正しく報告する文化

発生した事故・事象を速やかに正しく報告し、事故の再発防止に活用します。

気づきの文化

事故・事象に結びつく前の、「埋もれている事故の芽」に気づいて、情報を共有化し、事故防止に活用します。

ぶつかり合って議論する文化

原因を究明する際、さまざまな意見を出し合い、ぶつかり合って議論することで、背後要因を捉え、真に有効な対策につなげます。

学習する文化

自分以外・自分の職場以外で発生した事故・事象についても、自らの事として置き換え、教訓を学び、具体的な対応に結びつけていきます。

行動する文化

最終的に具体的な安全行動に結びついて、はじめて安全は確保されます。「自ら考え、自ら行動する」、これが安全を支える源になります。

普段から、CS(チャレンジ・セイフティ)運動や業務研究などの各種取組みの中で、例えば「リスクを徹底的に掘り起こす」などの「安全行動」を実践することにより、5つの文化をさらに浸透させていきます。

CS(チャレンジ・セイフティ)運動のさらなる活性化

会社発足以来、「『守る安全』から『チャレンジする安全』へ」をスローガンとして、CS(チャレンジ・セイフティ)運動を展開してきました。「チャレンジする安全」はCS運動の原点であり、社員一人ひとりが、具体的な取組みについて全員で考え、議論しながら行動していきます。

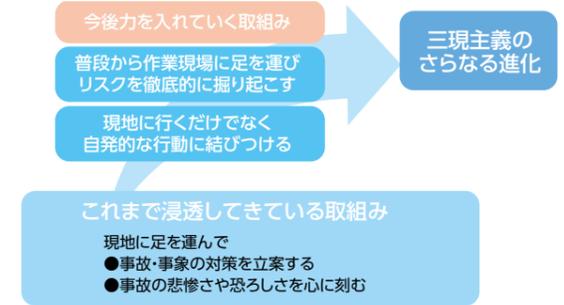
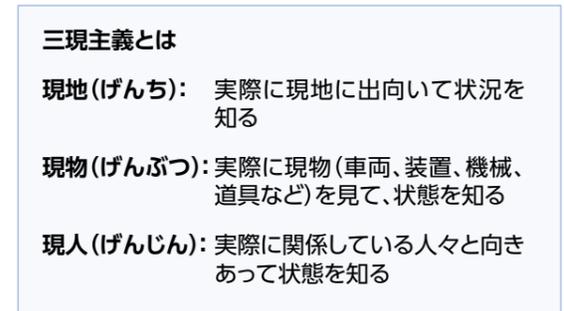
形にとらわれず全員で取り組むとともに、「『仕事の本質』の理解」や「リスクの徹底的な掘り起こし」など、様々な視点を取り入れながら、CS運動のさらなる活性化を図ります。

三現主義のさらなる進化

安全の問題は常に「現場^{*}」で起こります。したがって、答えも「現場」にあります。

「現地・現物・現人」の「三現主義」により、机上だけではわからない「答え」を模索していきます。

※「現場」とは「お客さまとの接点、輸送・サービスの原点である。直接安全に関する作業を行う現地・現物・現人」を意味します。



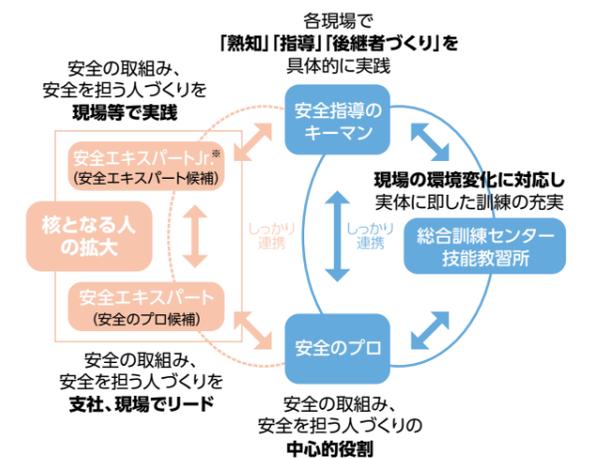
〈環境変化に対応した人材育成の推進〉

一人ひとりが環境変化に的確に対応して「安全行動」を実践するために、「体系的な『安全を担う人づくり』」「『仕事の本質』の理解の促進」などにより、一人ひとりの「意欲」「技量」の向上を図り、人材育成を推進していきます。

体系的な「安全を担う人づくり」

鉄道の安全を担っているのは、鉄道に携わるすべての社員です。人手不足やシステム化により仕事のしくみが大きく変わっていく環境下では、より一層安全に関する知識・指導力・技術力を持った社員の育成が重要になることから、体系的な「安全を担う人づくり」を進めていきます。

①「安全の取組みの核となる人」の拡大



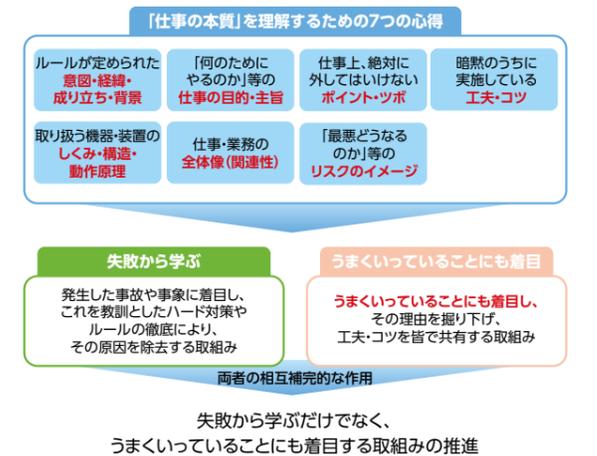
※各支社独自の育成研修修了者

②「安全の取組みの核となる人」を軸にした安全を担う人づくり(すそ野の拡大)

「安全の取組みの核となる人」が軸となって安全性向上の取組みを進めることにより、安全に関する知識等を持った社員を拡大していきます。

「仕事の本質」の理解の促進

大きな環境変化に的確に対応していくためには、「仕事の本質」を理解する必要があります。単に仕事の手順ややり方を学ぶだけではなく、仕事の目的、ルールの成り立ち、機器の動作原理など7つの心得を意識して、「仕事の本質」の理解を深めます。



【新たなリスクを捉えルール・しくみを変革】

常に環境変化に対応して、ルール・しくみを変革することで、新たなリスクに対応していきます。

■一人ひとりの取組みを起点にした
ルール・しくみの変革

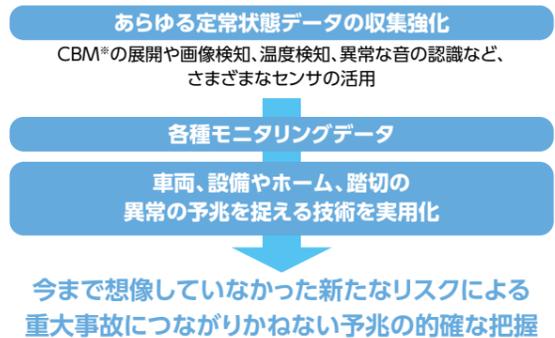
一人ひとりが各種取組みで知得した、作業実態と合わなくなっているルールや、実態と乖離した作業環境などの問題点を発信・共有・議論し、ルール・しくみの変革につなげていきます。

■未来予想型の安全対策の推進

①ビッグデータ、AI、IoTなどを活用した

未来予想型の安全対策の推進

今までに想像していなかった、新たなリスクによる重大事故につながりかねない予兆を的確に捉えるため、ビッグデータ、AI、IoTなどを活用した安全対策を推進します。



※CBM Condition Based Maintenance (状態基準保全)の略称。設備の状態を常時モニタリングする検査手法。

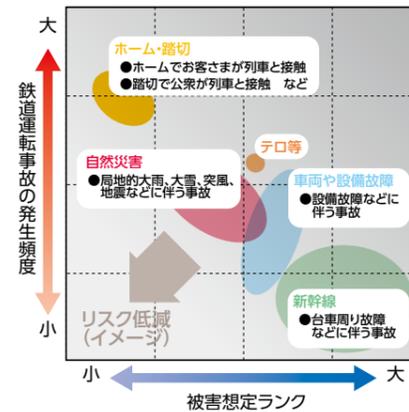
②リスクアセスメント手法の導入による
安全対策や設備投資の検討

10年後における鉄道運転事故のリスク分析を行った結果

- ・ 車両、設備等の強靭化
- ・ ホーム、踏切の安全対策
- ・ 自然災害への対応
- ・ 新幹線に関する安全対策
- ・ テロ等への対応

に特に注力し、着実にリスクを低減させていきます。

【10年後の姿を想定したリスク分析】

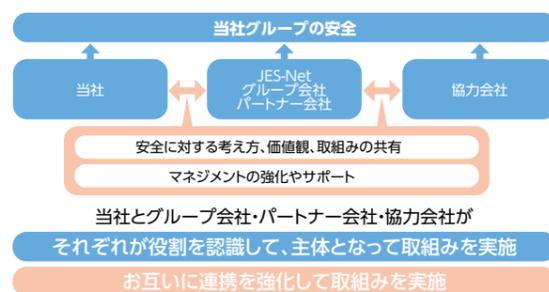


【被害想定ランク】
お客さまや社員の負傷者数の程度、当社グループの被害、損害の程度を示す

＜グループ会社・パートナー会社・協力会社が安全に作業できる体制のさらなる整備＞

■グループ会社・パートナー会社・協力会社
とともに進める安全マネジメントの強化

当社グループの安全は、グループ会社・パートナー会社・協力会社と当社が一体となって支えています。グループが一体となってさらに安全性を向上させるために、それぞれが役割を認識して主体となって取組みを進めていきます。さらに、お互いに安全に対する価値観を共有するなどして連携し、安全に作業できる体制の強化を進めていきます。



＜新幹線に関するさらなる安全対策＞

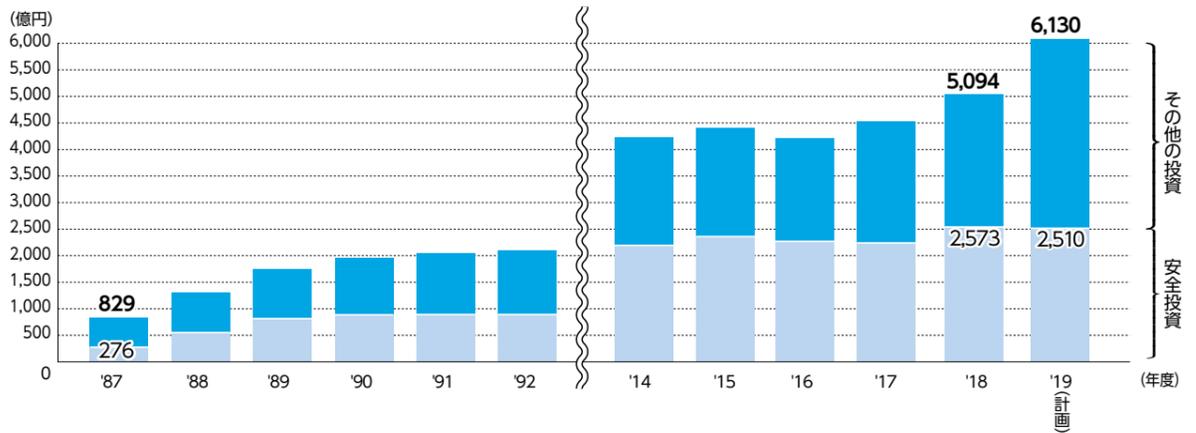
新幹線については、万が一重大事故が発生した場合には被害が甚大になることが予想されます。「設備のまとまった更新時期の到来」「高速化」「ネットワークの拡充」等、新幹線特有の変化点を的確に捉えるとともに、重大事故につながりかねない予兆を把握する取組みを推進し、これまで以上に新幹線の安全対策を強化していきます。

3 新たな技術を積極的に活用した
安全設備の整備

■安全に関する設備投資額

当社はこれまでに総額約4.2兆円の安全投資を行ってきました。「グループ安全計画2023」では、2019年度からの5年間で約1.2兆円の安全投資を行うことを計画しており、今後も安全設備の整備を推進していきます。

【安全投資額とその他の投資額の推移】



■2019年度の主な安全投資件名

2019年度は、「基幹設備の強靭化」「新たな技術による鉄道のシステムチェンジ」「ホームの安全対策」「踏切の安全対策」「自然災害対策」を着実に進め、「グループ安全計画2023」における安全設備整備計画を推進します。

設備投資額の合計は6,130億円を見込んでおり、そのうち安全投資は2,510億円を計画しています。